

試験植樹の実施について

1 概要

水処理施設稼働終了後の本植樹の実施に向け、土質の違い、施肥の有無による複数の植栽方法により苗木の生育可能性を検討するため、10月21日（木）に県境不法投棄現場内において試験植樹を実施しました。

2 試験地

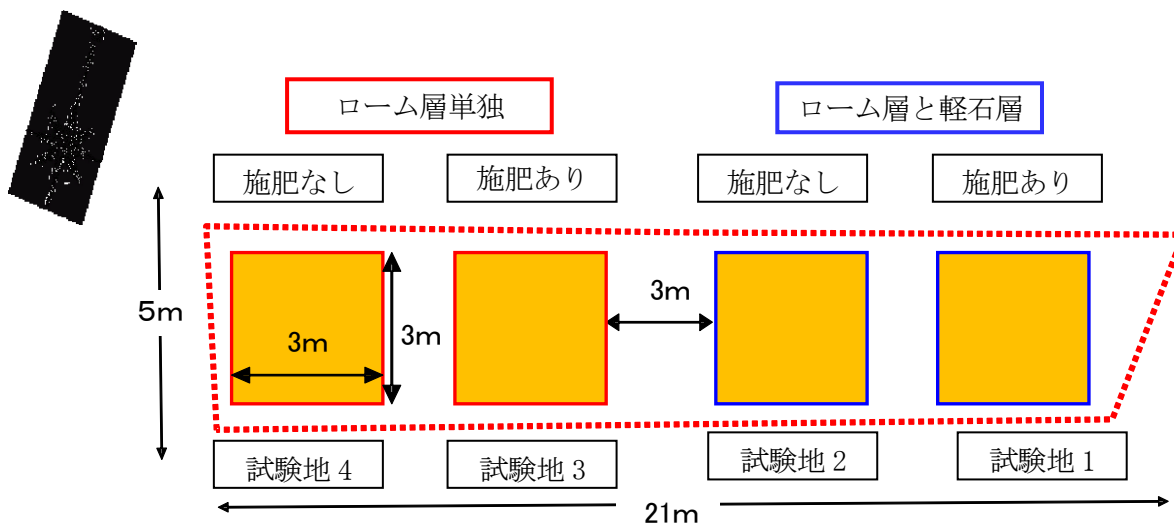
全ての試験地をあらかじめ約50cmの深さまで耕耘したうえで、4種類の試験地を設定しました。

試験地	土質の違い	施肥の有無
試験地1	ローム層と軽石層	有（ピートモスとバーク堆肥により土壌改良）
試験地2	ローム層と軽石層	無
試験地3	ローム層単独	有（ピートモスとバーク堆肥により土壌改良）
試験地4	ローム層単独	無

※ピートモス：水苔類が堆積、腐葉土化した土を脱水したもので、土中の保水力と通気性を高める効果がある。

バーク堆肥：樹木の皮の部分（バーク）を発酵させたもので、土中の保肥性、保水性、通気性を高める効果がある。

試験地の配置図



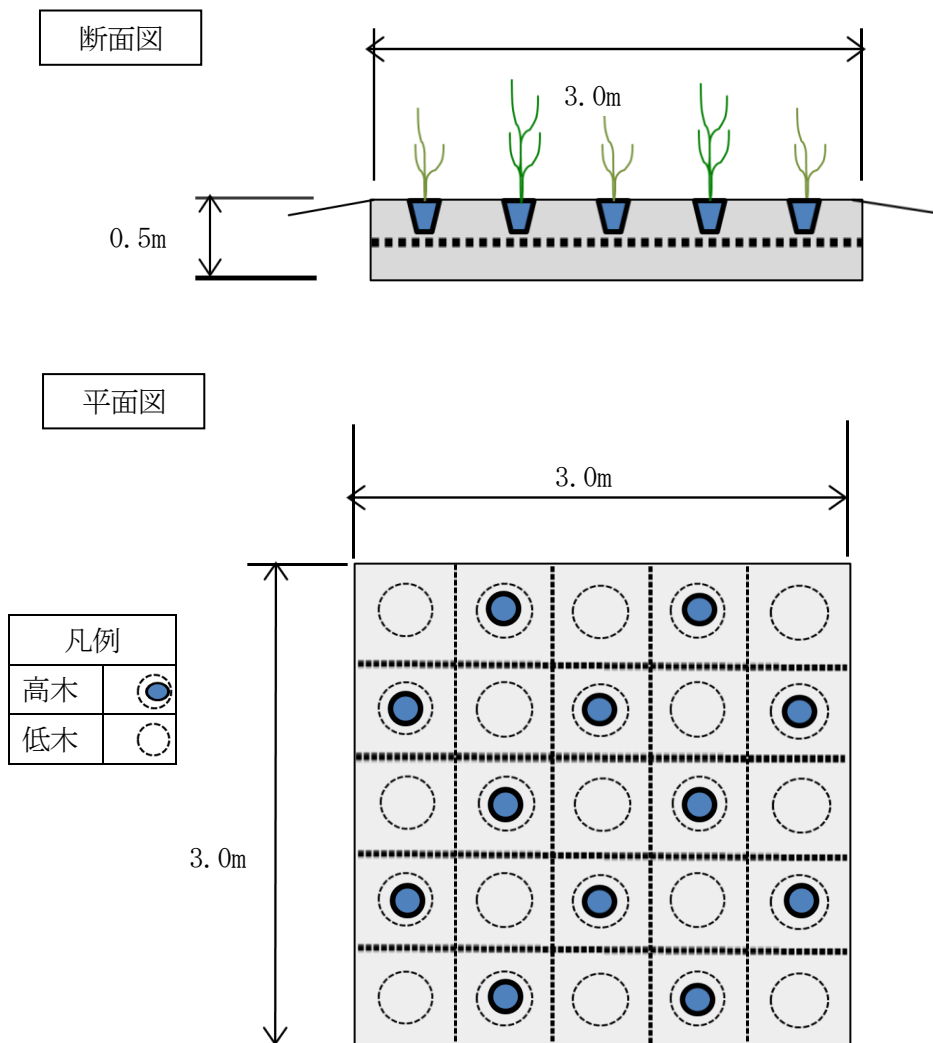
3 樹種

高木類と低木類を合わせた12種類の樹種を使用し、一試験地あたり25本、合計100本のポット苗木を植樹しました。

○高木類 ミズナラ、ブナ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ヤマザクラ、シラカンバ

○低木類 オオバクロモジ、ヤマツツジ、ガマズミ、オオカメノキ、タニウツギ、エゾアジサイ
（その他、ロングルート苗を3本（ミズナラ、コナラ、クリ）植樹。）

4 植樹方法



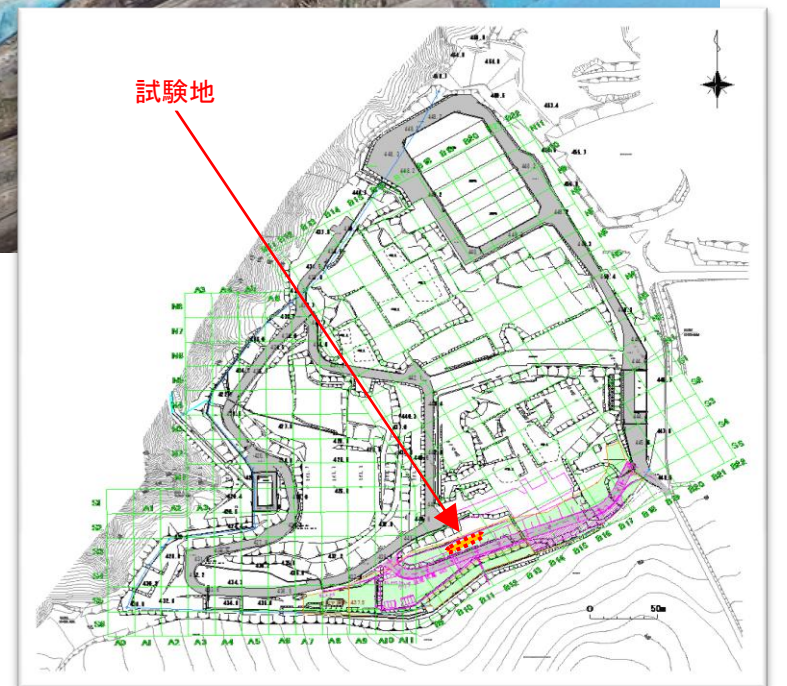
5 モニタリング調査

試験植樹では、ポット苗の活着や枯死が考えられるほか、周辺からの樹木や草本類の自然侵入等、様々な消長が想定され、またポット苗には植栽方法や立地の違いに応じた生長の違いが想定されることから、今後、四半期ごとに下表に示す項目を3年以上記録することとします。

○モニタリング項目

項目	調査内容
個体数	個体数を記録し、活着率を算出する。
活力度	樹木活力度を参考に、地上部の葉の繁り等を評価する。
サイズ	樹高、樹冠幅、胸高直径を記録し、材積を算出することで生長量を算出する。
根 茎	土中の根茎の根量、深さを確認し、施肥のほか、土壌硬度による影響を把握する。
周辺植生	ポット苗以外の侵入状況を記録し、除草の必要性や樹木の自然侵入の可能性を検討する。

植樹後の試験地の全景



試験地 1 (ローム層と軽石層の混合、施肥あり)



試験地 2 (ローム層と軽石層の混合、施肥なし)



○ オオカメノキ	◎ ハウチワカエテ	○ タニウツギ	◎ ブナ	○ エゾアジサイ
◎ ミスナラ	○ ヤマツツジ	◎ シラカンバ	○ タニウツギ	◎ イタヤカエテ
○ オオカメノキ	◎ ハウチワカエテ	○ ヤマツツジ	◎ ブナ	○ エゾアジサイ
◎ ミスナラ	○ オオハクロモジ	◎ シラカンバ	◎ エゾアジサイ	◎ ヤマザクラ
○ ガマスミ	◎ イタヤカエテ	○ ガマスミ	◎ ヤマザクラ	○ オオハクロモジ

※ミスナラ (ロングルート苗)

凡	高木類	◎
例	低木類	○

○ エゾアジサイ	◎ ヤマザクラ	○ オオハクロモジ	◎ ミスナラ	○ タニウツギ
◎ ブナ	○ ガマスミ	◎ ハウチワカエテ	○ エゾアジサイ	◎ イタヤカエテ
○ タニウツギ	◎ ヤマザクラ	○ ガマスミ	◎ ブナ	○ オオカメノキ
◎ シラカンバ	○ ヤマツツジ	◎ ミスナラ	○ エゾアジサイ	◎ シラカンバ
○ オオハクロモジ	◎ ハウチワカエテ	○ オオカメノキ	◎ イタヤカエテ	○ ヤマツツジ

試験地 3 (ローム層単独、施肥あり)



○ エゾアジサイ	◎ イタヤカエデ	○ ヤマツツジ	◎ イタヤカエデ	○ オオハクロモジ
◎ ヤマザクラ	○ タニウツギ	◎ シラカンバ	○ オオカメノキ	◎ ミスナラ
○ タニウツギ	◎ ブナ	○ オオハクロモジ	◎ ミスナラ	○ ガマズミ
◎ ヤマザクラ	○ ヤマツツジ	◎ ハウチワカエデ	◎ ガマズミ	◎ ブナ
○ エゾアジサイ	◎ シラカンバ	○ オオカメノキ	◎ ハウチワカエデ	○ エゾアジサイ

※クリ (ロングルート苗)

凡	高木類	◎
例	低木類	○

試験地 4 (ローム層単独、施肥なし)



○ タニウツギ	◎ ハウチワカエデ	○ ガマズミ	◎ ヤマザクラ	○ ヤマツツジ
◎ ヤマザクラ	○ ヤマツツジ	◎ ブナ	○ オオカメノキ	◎ ハウチワカエデ
○ オオカメノキ	◎ シラカンバ	○ オオハクロモジ	◎ シラカンバ	○ エゾアジサイ
◎ ミスナラ	○ オオハクロモジ	◎ ブナ	○ エゾアジサイ	◎ イタヤカエデ
○ エゾアジサイ	◎ イタヤカエデ	○ ガマズミ	◎ ミスナラ	○ タニウツギ

※コナラ (ロングルート苗)